

梶山理菜さん

(出来庭地区在住)

双子を出産し、育児中です。双子以上の母子や家族が交流する、こども夢プラザの事業「マスカット・キッズ」に参加しています。それまでの色々な悩みが嘘のように、気持ちがとても楽になって、明るくなったと実感しています。育児の悩みを語り合う場面では、新入りなので緊張しながら悩みを口にする、「それ、ワカル、ワカル」とみんなが即座



梶山理菜さん（後列左）

に応じてくれました。多胎児の親同士が打ち解けて色々な悩みを共有することができるとてもいい空気感に「助けられているな」と心から思い、とても温かい気持ちになれます。

新しくつくられる施設も、色々な考えを持った人が集まって、意見を出し合い、お互いを認め合い共感し合えば、きっと良い施設になると思います。実は私には、新しくつくられる施設でやってみたいこと、実現できればと思うことがたくさんあります。

例えばですが、マルシェを企画してみたいですね。キッチンカーを呼んだりして色々な食べ物を提供したり、自作の小物やアンティークな物を並べたり。店舗経営者であっても参加できる、フリーマーケットのようなイベントの企画です。海外の蚤の市のように沢山の人が集まるような場づくりは、まちの賑わいづくりにとても効果的だと思っています。そうしたことを企画したい人や参加したい人は、実は沢山いますよ。

使わなくなった子ども服を活かす取組みも、是非してみたいです。我が子が成長した後も、子ども服を綺麗な状態で大切に保管している人は多くいます。お古とはいえないような状態のいいものがたくさん眠っています。そうした人に声がけをして出品していただいて、必要としている人にシェアする。大切なものをただ眠らせておくのではなくて、必要としている人に託すことで資源を活かしてゆく。そうした、我が子の大切な思い出のある子ども服を手放せるきっかけづくりもしてみたいですね。

新しくつくられる施設には創作活動を支える環境づくりがされるようです。私自身、ビーズや天然石を使ったアクセサリーなどを手づくりしていますが、私のようなモノづくりをする人たちが集まって、意見を出し合ったり相談したりすることができて、更に手づくり作品をそこで販売することもできる。そうした作家同士の交流の場づくりや収入が得られるような仕組みがあれば、そこから起業家が育って、例えば空き家を使って店舗を開

くといったことになれば、まちの活性化につながるかもしれません。

子どもたちが、しっかりと活動できるホールもつくられるようです。子どもたちは色々な習い事をしていますが、形づくられたモノを展示したり習得したコトを表現したりすることのできる場があることは、子どもの達成感や自己肯定感を高めるうえで大切だと思います。子どもが輝く姿を大人たちがそばで見守っている。そうした姿をまわりで見ていると、誰しもきっと心が癒されると思います。

子育てをされていて思うことがあります。町の色々なイベントも土曜日や日曜日に行われるものが多いですね。イベントが多い土日は保育園が休みですから、一次保育などのサービスは使えません。育児中には、イベントに参加したくても、なかなか出かけることができないのがとても残念です。新しい施設では、そこで保育サービスがあるとか、ファミリー・サポート事業がその場で利用できるとか。そうした子育て家庭に配慮したイベントの企画段階での工夫があれば助かりますし、そうしたイベント企画もしてみたいですね。平日は子育て家庭が出かけやすいということもあると思います。ですから、集客を見込むイベントであっても、内容によっては平日でも一定の集客が見込めるものはあると思います。

課題は公共交通だと思います。バス路線がないですね。何らかの交通手段は必要です。例えば、電話をするとバス停まで迎えに来てくれるとか、施設行きに限定したタクシーを低額で利用できるとか、乗り合って利用できるような乗り物があるとか。町外の人や車に乗れない人の利用を考えた交通サービスがないと、ほんとうに困ります。

いろんな意見や知恵を出し合えば、新しくできる施設はきっと子どもも大人も楽しめる場所になると思います。私自身も施設運営や企画づくりに協力したいです。

オープンがとても待ち遠しい。早く行きたいです。

この内容は、令和5年1月14日に開催した『(仮称) 筆の里創造の丘公苑「体験交流施設」ワークショップ』に参加いただいた方へのインタビュー内容を記録したものです。(一部要約をしました。)

日時 令和6年7月4日午後1時から

場所 くまの・夢プラザ